



横浜ほうゆう病院は横浜市泉区の 認知症初期集中支援チームとして活動しています

横浜ほうゆう病院 院長 日野 博昭



2年ぶりの登場となります、横浜ほうゆう病院、院長の日野です。今回は認知症初期集中支援チームについて紹介します。当院は昨年9月より横浜市に委託されて泉区の認知症初期集中支援チームとして活動しています。

《連携-16》

認知症初期集中支援チーム

複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント、家族支援等の初期の支援を包括的・集中的(おおむね6ヶ月)に行い、自立生活のサポートを行うチーム

●認知症初期集中支援チームのメンバー



【対象者】

- 40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する人
- ◆ 医療・介護サービスを受けていない、または中断している人で以下のいずれかに該当する人
 - (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない人
 - (イ) 包括的な医療サービスを受けていない人
 - (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない人
 - (エ) 診断されたが介護サービスが中断している人
 - ◆ 医療・介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している

※認知症サポート医養成研修スライドより

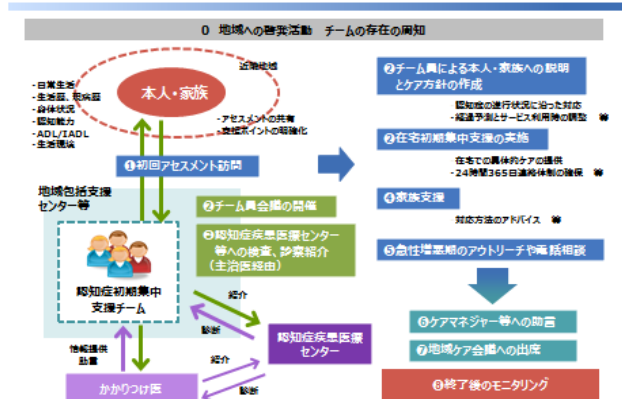
認知症初期集中支援チームは、厚労省の「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」の柱の一つとして創設されることになり、チームによる早期支援機能が期待されているものです。チームは、市町村を実施主体として、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるような支援を、できる限り早い段階で包括的に提供するものであり、新たな認知症ケアパスの「起点」に位置づけられています。

医療と介護の専門職で構成される支援チームは、地域包括支援センター等に配置され(横浜市では診療所や病院)、家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、アセスメント・家族支援などの初期の支援を専門医療機関やかかりつけ医と連携しながら包括的・集中的に行います。また、支援チームは対象者が必要な日常生活や日常診療に結びつくように支援を行い、介護支援専門員等を引き継ぐなどの個別支援も行います。

チーム員は複数の専門職(具体的な人数は地域の実情に応じて設定)で編成されています。当院では私が専門医・サポート医として、複数の看護師・精神保健福祉士・作業療法士らが参加し、チームを編成しています。

《連携-17》

認知症初期集中支援の流れ(イメージ)



※認知症サポート医養成研修スライドより

全体の活動の流れを示したイメージ図ですが、①初回アセスメント訪問には事前に本人・家族の同意が必要とされています。元々、医療や介護を拒否しているためこの同意を得るのが非常に難しく、実際①に至るケースが少ないのが現状です。活動が始まった昨年9月から今年8月までの1年間で検討が上がったケースは27例ですが、実際に訪問に至ったケースは8例のみです。もちろん訪問せずに医療や介護へ繋がったケースもありますが、訪問に繋がらず不幸にも自宅で亡くなって発見されたケースもあります。

横浜市の認知症初期集中支援チームは平成27年鶴見区と西区で試験的に始まり、その後、各区に広がり、本年の4月に全区に設置されました。ただ、どの区もまだ手探り状態で、支援チームの周知や同意の取得から効果的な介入の方法などはまだ確立されておらず、課題は多いようです。初期集中支援の「初期」は認知症の初期状態を意味し、早期から包括的に地域ケアを続けていくことを厚労省は期待しているようですが、初期の認知症で周囲の人に気づかれるも本人が受診や介護を拒否する場合、よほど周囲の人が認知症対策の必要性について意識を持たないと受診させようとするのは少ないと思います。初期の認知症の方では、BPSDなどが問題になることはほとんどありません。むしろある程度の進行によってBPSDは出現し、初めて周囲が認知症に気づいて困ることが多いのです。実際に検討となったケースでも、ゴミ屋敷に近い状態で以前から周囲で問題となっていたケースは認知症としてはかなり進行しているなど、いわゆる処遇困難といわれるものが多いのが現状です。

まだまだ支援チームとしての活動は活発とは言いがたいものですが、泉区で認知症患者さんが医療・介護と繋がらずお困りの方はお近くの包括支援センターや区役所の高齢支援課へ一度ご相談を検討して下さい。

平成30年度

ケアワーカー研修会を開催しました。 H30.9/8 (土) 横浜ほうゆう病院 会議室



池島 常務理事

平成30年9月8日(土)9時~16時 鵬友会合同ケアワーカー研修会が行われました。

まず初めに池島常務理事の講話の中で、ケアワーカーに期待する事として、①ケア技術力のレベルアップ ②病院・施設組織の一員であることを意識し業務にあたる ③看護部職員・介護課職員として看護師と共に職場の目標達成の為に努力するをあげ、期待を込めてエールを送りました。

続く、横浜ほうゆう病院 原科看護部長より、「ケアと接遇」をテーマに【病院・介護施設のケアとは！接遇とは！】について説明し、横浜ほうゆう病院 井上科長からは、「患者・利用者に心地よい介護技術」について、研修者にいろいろと体験をしてもらいながら患者・利用者の立場にたってもらい、具体的な説明を行いました。

後半のグループワークでは、「日々のケア中に患者が怒ってしまった、言葉遣い等を注意された、自己、他者の対応で気になっている事柄」をテーマに、ディスカッションし、学びを深めました。

この研修を通して、鵬友会全体のレベルアップに繋がることを期待します。



原科 看護部長



井上 リハビリ科長



全体風景



【グループワーク】

『ひつじのショーンキャラバン隊』が【ほうゆう保育園】を訪問

横浜市は、東京2020オリンピック・パラリンピックにおける英国代表チームの事前キャンプ地として受け入れを決定し、英国のホストタウンに登録されました。これを機に、英国発のアニメ「ひつじのショーン」が親善大使として就任。そして、横浜市の次世代育成事業の一環として「ひつじのショーンキャラバン隊」が抽選で当選した幼稚園・保育園へ訪問することが決まりました。この抽選に【ほうゆう保育園】が当選しました。 9/14 (金)



0・1歳児クラス



2歳児クラス



3歳児クラス



4歳児クラス



5歳児クラス